

法人名 特定非営利活動法人たねの会

事業計画書

<p>事業名</p>	<p>誰一人取り残されない学びの保障にむけた地域づくり事業</p>
<p>種類</p>	<p>(1) SDGs 推進事業 (人間 豊かさ 地球 平和 パートナースhip )                  (2) 自立促進事業 (人間 豊かさ 地球 平和 パートナースhip )</p>
<p>1. 事業の目的</p>	<p>(1) これまでの活動と活動の中で明らかになった課題                  2003 年からさいたま市内で子どもたちの「やってみたい」を大切に                  した「冒険遊び場（プレイパーク）」づくりの活動を続けきた。2018 年                  からは常設の「冒険はらっぱプレイパーク」の運営をさいたま市から                  受託し、乳幼児から小中高生まで、様々な背景をもつ子どもたちに出                  会ってきた。その中には、学校や地域に居場所を見いだせず、自らを                  否定してしまい孤立感を抱いている子どもやその保護者が多くいた。</p> <p>(2) 課題に取り組むことの必要性                  不登校の子ども数（小中学生）は、2021 年度（2022 年 10 月文科                  省発表）で約 24 万 5 千人に達し、8 年連続で増加しており、特に小学                  校低学年からの不登校が増加している。2016 年「普通教育機会確保法」                  の成立によって、不登校は問題行動ではないことや、学校復帰が目的                  ではなく、社会的自立を目的とした支援についての見解が出され、公                  民連携による学校制度外の居場所・学び場との連携もうたわわれてい                  る。また 2023 年 3 月には、文科省から「誰一人取り残されない学び                  の保障にむけた不登校対策」も出されているが、まだその学びの選択                  肢となりうる場所は地域に少なく、多くの不登校の子どもたちが在宅                  で過ごさざるを得ない状況がある。また、まだまだ「学校に行けない                  ことは問題である」という社会通念が強いことから、そのような家庭                  が地域に行き場をなくし、孤立していく傾向があり、地域にその理解                  と支援を広げ、学びの場をつくっていく必要がある。</p> <p>(3) 事業の目的                  学校生活になじめず、困難にぶつかった子どもであっても、その子の                  持つ個性や可能性、教育を受ける権利は決して否定されるべきもの                  ではない。自分のペースで安心して学べる場をつくり、まちの人たち                  に見守られながら豊かに育っていける環境をつくることは社会の責務                  であると考え。本事業は、「誰一人取り残されない」学びを地域で保                  障することを目的に、子どもたちの「やってみたい」を支える居場所                  づくり、子どもたちを受け止め育むことのできる地域社会づくりを                  目的に、事業を行っていく。</p>

## 2. 事業の内容

### ①心の行き場を探している子ども/親の出会いのきっかけ、居場所づくり

#### 「室内プレイパーク&親の会」の開催 8月(3回)

【場所】岩槻駅東口コミュニティセンター

【対象】誰でもOK。不登校(行き渋り)についてのおしゃべりができる場であることをお知らせに表示しておく(親子で40人程度)

工作やゲーム、読書、身体を使った遊び等、自分のペースで好きなことをして過ごせる「室内プレイパーク」を開く。親同士も子どもと少し離れておしゃべりができる「親の会」を開き、親子がそれぞれ安心して遊んだりおしゃべりできる場づくりを行う。

### ②当事者ニーズや課題の把握(こども会議&親の会) 9月(4回)

【場所】水野書店(岩槻区)所有の古民家スペース

【対象】①参加者のうち希望者・新たに参加したい親子(毎回5組程度)遊びの場を開きながら、どんな居場所や学び場がほしいか、大人に望むことなど、子どもたちの声を聞ける会を開く。また、親の不安や望んでいることなども聞きあえる場をつくり、孤立感の解消と問題解決にむけることを探り、発信できるようまとめる。

### ③こども支援に関する学習会 9~10月(3回)

【場所】水野書店(岩槻区)所有の古民家スペース

【対象】地域の方や保護者・市民団体・学校関係者など(20人程度)講師を招き、現在の日本や自治体の不登校施策やこども支援のあり方、地域でできること等について学ぶ場を開く。地域の方や団体等をお誘いし、地域に子どもや家庭を支えるネットワークをつくるきっかけとする。

### ④地域への理解を広げる(映画「ゆめパのじかん」上映会開催 9月(1回)

【場所】岩槻駅東口コミュニティセンター(ミニホール)

【対象】地域の方や保護者・学校関係者など(20人×2回)

不登校とされる子どもたちの生きる力と大人の関りに焦点をあてた映画「ゆめパの時間」の自主上映会を開き、大切にしたい「子どもの時間」と「地域や大人のあり方」について、様々な立場の人と考えられる時間をつくる。また②③の報告の機会とする。

### ⑤子どもたちが地域とつながるきっかけづくり 10~11月(1回)

(ストリートイベントの開催)

【場所】古民家スペースや地域空間

【対象】これまでの参加者や参加したい子どもや保護者(15人程度)自信を失いがちな子どもたちが、地域でのびのびと遊んだり活動できるきっかけの場として、岩槻駅前や商店街をつかったストリートイベントを開催する。(地域のイベントに便乗するか、独自にやるか、何をするか等は②の中で話し合っ

て決める)  
例) みちあそび、お店やさん、アートイベント、マルシェへの参加等

**⑥地域の方とのつながりづくり**

（「まちの達人と遊ぼう(仮)」開催 11～1月(3回)

【場所】古民家スペースや地域の各スペース（商店・事業所等）

【対象】これまでの参加者や参加したい子ども（各回10～50人程度）  
商店や事業を営む方、特技をお持ちの地域の方等が子どもたちと触れ合える機会をつくる。まちに子どもたちの異年齢の友達＝「見守り、時に手助けしてくれる大人」を増やしていく。

例) 工務店さんと木工作遊び、動画クリエイターと動画をつくってみる等

**⑦報告会（発表会）の開催 2月（1回）**

【場所】岩槻駅東口コミュニティセンター

【対象】これまでの参加者や協力して下さった方・地域の方など  
本事業の報告（場合によっては子どもたちや街の人からの発表）の会を開く。  
保護者や地域の方、関係機関（学校や行政職員）にも案内をし、子どもたちの姿や本事業の実践について知ってもらい、次年度の活動につなげる。

**3. 実施計画**

- (1) 7月初旬よりSNSにて参加者募集の広報を開始する。
- (2) 7月下旬には本事業のチラシをイベントや学校、近隣施設、商店などで配布できるようにする。
- (3) 8～1月の事業の実践の後、報告書を作成。2月に報告会を開き、次年度の活動へつなげる。

**○スケジュール**

時期	
7月	チラシの作成・印刷・配布
8月	8/16(水) 室内プレイパーク&親の会① チラシ等配布 8/26(土) 室内プレイパーク&親の会② チラシ等配布 8/28(月) 室内プレイパーク&親の会③ チラシ等配布
9月	こども会議&親の会 9/2(土)こども支援に関する学習会 9/23(土) 映画『ゆめパのじかん』自主上映会開催
10～11月	イベントの実施（参加）
11月	まちの達人と遊ぼう 開催①
12月	まちの達人と遊ぼう 開催②
1月	まちの達人と遊ぼう 開催③
2月	報告会（子ども・保護者・市民・行政向け）

**○広報計画**

7/1 から SNS にて広報開始

7/23 にリーフレット・チラシ発注

8月より、リーフレット・チラシ配布（あいさつ周り）

（学校・自治会・商店・公共施設・地域団体等）

<p>4. 実施体制</p>	<p>○統括責任者・連絡責任者：佐藤美和（たねの会）</p> <p>○現場責任者：佐藤信一 他現場スタッフ1名</p> <p>○経理担当者：杉本路</p> <p>○広報担当者：秋本創</p> <p>* 広報協力：地域活動ネットワーク「さいまーる」・さいたまこども劇場・ ぷらっとほ～む不登校ネットワーク、 まちづくりユニット「まち・あわせ」等市内団体</p> <p>* 協力依頼団体：水野書店・岩槻家守舎・岩槻子育て応援隊・コミュニケーションネットワーク岩槻・岩槻人形文化サポーターズ等</p>
<p>5. 事業の効果</p>	<p>○不登校となり孤立しがちな子どもや親の居場所・つながりをつくることができる。</p> <p>○子どもたちが安心して過ごせる時間、自己決定できる場所、表現できる場所をつくることで、本来それぞれが持っている子どもの力を引き出し、自ら伸びていく手助けができる。</p> <p>○親もつながり、不安を解消することで、子どもを信じて待つことができるようになり、それが子どもの心の安定にもつながっていく。</p> <p>○地域の方々や団体・事業者等とも様々な接点をもつことによって、地域に理解者・支援者を増やし、子どもを育むことのできる地域づくりにつなげることができる。</p> <p>○埼玉県のご協力のもと事業を行えることで、市内の学校や公共施設や商店にも案内を広げやすく、様々な機関と連携をはかることができる。</p>
<p>6. 今後どのように事業を継続し発展させるか</p> <p>※自立促進事業のみ</p>	<p>次年度も、まちのコミュニティスペースとなっている「水野書店」さんのスペースをお借りしながら、地域で孤立しがちな親子の出会いの場・居場所づくり、地域づくりを継続していく。自立し、日数を増やしていくにあたっては、受益者負担も行いつつ、ご家庭への負担を極力かけないように、寄付や協賛などを募っていく。また、地域で居場所やこども支援をボランティアで手伝ってくれる方も見つけていく。さらに、これ以上、不登校となって苦しむ子どもや家庭が増えていくことのないよう、東京都や群馬県、長野県、千葉市などの家庭支援の事例も参考にしながら、本事業の実践もふまえた提案を持って行政へも働きかけていく。</p>

◎応募の際に本予算書で計上しなかった経費項目は、事業実施時に支出が生じたとしても対象経費とはなりません。

法人名 特定非営利活動法人たねの会

### 事業収支予算書

#### 1 収入の部

項 目	予算額 (円)	積算内訳
助成希望額 (千円未満切り捨て)	500,000	
自己資金	0	
事業実施による収入等	40,000	1,000×20人×2回
その他	0	
合 計		⑤ 540,000

#### 2 支出の部

項 目	予算額 (円)	積算内訳
会場費	32,000	室内プレイパーク 4,000×3 上映会 16,000 報告会 4,000
通信運搬費	8,000	切手代 140×50か所 配送料 500×2回
旅費交通費	31,200	800×2人×10日=16,000 800×3人×5日=12,000 800×4人×1日=3,200
消耗品費	92,200	模造紙・画用紙・折り紙・セロテープ・ガムテープ・養生テープ・ビニールテープ・すずらんテープ・はさみ・のり・ボンド・毛糸・ストロー・紙皿・モール・ビーズ・クレヨン・ペン・筆記用具・ゴミ袋・トランプ・UNO・なわとび・ボードゲーム・おもちゃ・本・お茶・コピー用紙・封筒・インクカートリッジ・敷物・タープ・簡易テーブル&イス・ホワイトボード・映画チラシ・ポスター・その他
備品費	0	

委託費	87,600	チラシ印刷 4,030×4回 映画レンタル料 50,000 チラシ 1000枚 5000円 ポスター3枚 900円 報告書印刷 15,580
謝金	74,000	学習会講師 30,000×1人 10,000×2人 まちの達人 8,000×3人
人件費	205,000	室内プレパ2人×1万×3日 こども会3人×5,000×4日 学習会 2人×3,000×3回 上映会 4人×3,000 イベント 3人×5,000 まちの達人 2人×5,000×3 報告会 2人×5,000
その他	10,000	保険料 6,000 コピー機使用料 3,000 振込手数料 1,000
合計 (事業費)		<b>㊦ 540,000</b>

収入の部の合計 (㊤) = 支出の部の合計 (㊦)